

小林市議会「市民との意見交換会」地区別意見交換会【報告書】

開催地区	紙屋小校区	担 当 班	議員名	担当
参加人数	27人		大浦 竹光	司会進行
開催日	平成27年7月29日(水)		◎蔵本 茂弘	活動報告(総務文教)
開催時間	午後7時～午後8時30分		海老原 幹朗	(経済産業)
会場	紙屋老人福祉館		高野 良文	(市民厚生)
その他	3班		穴見 嘉宏	(広報広聴)
			穴見 嘉宏	記録・報告書作成

◎班代表者

意見交換会の内容		※□市民の意見	■議員の意見
統一テーマ	「活力ある地域づくりのために ～雇用・結婚・子育て・定住～」		
【意見交換の概要】			
□人口をふやすために、子育て支援のための住宅提供を考えてほしい。新村地区で土地改良区の償還の終わった農地があるが、高齢化で農地として維持していくのも難しい状況にある。紙屋は宮崎市へのアクセスも良いから、宅地は提供するぐらいのことでして若い人に家を建ててもらおうということはできないか。			
□転勤族だが結婚してから、えびの、都城、西都、宮崎、全て紙屋から通えた。小中一貫校をせっかくつくったが人数が少ない。よそから呼び込むということを提案したい。			
■市営住宅や宅地開発については、多くの地域から要望が出ているため、議会全体で議論を深めていきたい。			
□議員の報酬は十分活動するだけの金額なのか。			
□ある町では、人口減少に歯止めをかけるために町長自ら給料を半額に、議員も40％削減するという事で財源を作り、第4子には100万円をプレゼントするそう。町には活気が出てきているそう。小林市議会は、定数削減はしたが30％の報酬削減は検討はされたようだがそのままで終わっているようだ。市に活気が出で来る様なことを検討していただきたい。			
■議員報酬については市民の皆さんにアンケートをとった結果、6割の方が今のままで良いということであった。他に、下げるべきが約1割、上げるべきが約1割であった。この結果も踏まえ現状維持ということにしたが、今日の意見はきちんと受け止めたい。			

テーマ② 男女共同参画社会の推進について

【意見交換の概要】

□ある会に代表で出席したとき、「男性が沢山いるのに」といわれショックを受け、いまだにこんな感覚なんだと唖然とした。男性の考え方を変えていただきたい。お互いに補っていけるような世の中になってほしい。

□お母さんはいつも使われる立場にあるのが現状である。地域で男女共同参画を進めていったら良いのではないかとと思っている。「輝けフロンティアのじり」の役員は女性が1人で、エッと思った。いろんな地域組織に女性比率の枠を設けたらいいのではないかと。議会から提案していただきたい。

【調査結果】市の審議会などの女性比率は約26%だ。身近な問題を取り上げながらみんなで考えていかないといけない。

自由意見の交換

□子宮ガン検診を紙屋地区で行ってほしいが、少ないからできないといわれた。少ないからしないという事ではますます少なくなる。一考をお願いしたい。

■いい回答ができるよう努力したい。

□市の様々な行事に市民にボランティアで手伝ってと要請があるが、市職員は給料をもらっていて市民には車代も無い。ボランティアをやらないというわけではないが、少額でも良いから有償ボランティアという考え方はできないか。

■市内には沢山のボランティア団体がありそのほとんどが手弁当でやっておられる。活動経費の補助はあるが現状では日当的なものは難しいと思う。

□消費税が上がり、年金が下がり高齢者の生活が困窮し、プレミアム商品券は買えず関係ないという状況である。子育てのことも大切だがそういう高齢者のことも考えてほしい。

■一般質問等でも何回も取り上げているが、子どもの貧困の問題を含め具体的な形で一歩でも踏み出せるようにしていきたい。

□スーパーコーヨー付近の国道・県道の道路改良が相続の関係で進んでいない。特例措置を作ってもらようよう市議会で検討し国・県へ要望してほしい。市道の部分もあるのでそこだけでも早くしていただきたい。

【調査結果】地権者及び相続人との協議がいまだ調わず、国道に係る箇所工事が進まないため、接続する市道についても進められない状況である。早期解決を図るよう当局に要請した。

□今度のはなみずきを見てみたら、今国会で審議されていることだが、安保法制反対の請願に賛成の議員は6人しかいなかった。川内原発の件についても不採択となっている。将来のことを、想定外ということがないように今考えるべきだ。

■安保法制では良く考えるべきだという意見書を国に提出することができた。このことについては小林市議会は良く取り組んでいるということをご承知おきいただきたい。

□猿害の問題だが、地元を良く知らない人がパトロールしていてぜんぜん効果が上がっていない。なぜこんなことをしているのか。

【調査結果】市が業務委託する場合、個人とは契約できないため、シルバー人材センターと契約した。経済産業委員会において、市からシルバー人材センターに対し、土地勘のある方の派遣要請を行うよう伝えた。

□消防団員が無線を使うがその費用を個人で払わなければならない。活動に使うのになぜ個人負担なのか。

□無線は団員みんな持ってほしいが、お金がかかる。安心安全なまちづくりのためにも無線を購入しやすい環境を作ってもらいたい。

■野尻は無線を持っている団員が多いということである。この問題は、一般質問で取り上げたがまだ実現していないが、市からは、早急に取り組みたいとの回答を得ている。

□消防操法訓練に大塚原グラウンドを使っているが、サッカーグラウンドにする計画があり使えなくなる。花立原グラウンドを使うしかないが、コンディションが悪くグラウンドゴルフをする人達から苦情を言われる。地域のためにやっているのにという思いがありつらい。現状ではソフトボールもできない。入り口の部分は、車両が通れるように舗装してもらおうなど、グラウンドの改良をお願いしたい。

■消防団の活動を支えていくという意味からも要望していきたい。

□市役所庁舎の場所は商業高校跡では駄目だったのか。市の中心は堤のほうに移っていると思うが。

■場所についてはパブリックコメントを取ったりもしたが、結果的には、総合庁舎や税務署など関連施設もあるということで今の場所になった。商業高校跡地は、百歳会館がすでに移転し、ボランティア団体も入ってもらっているし、グラウンドゴルフ大会もできるようにもしていくということになっている。不満があるかもしれないがご了承ください。

□農地中間管理機構が始まっているがなかなかうまくまとまらない。将来的には、農地を宅地や市民農園などにということも考えていかないといけないのかなと思っているところだが、市議会はどういう考えを持っているのか。

■宮崎県は農地中間管理機構の推進率が悪い。土地改良区の組合長への説明はな

されているが、各組合員への説明が不足しているようだ。

□意見交換会開催についてはいつ決定されどのように啓発されたのか。テーマのどれをとっても若い人達に関係することであるから、若い人に沢山参加してほしいが、このようなことでは効果は半減する。来年はもう少しやり方を考え直したほうが良いと思う。

■去年からやっているが、チラシを回覧板に入れ、広報車や防災無線を使って周知を図っている。まだまだ足りないようなので、沢山の市民の参加をいただけるよう努力していきたい。

□認知症や独居老人が増えている。議員は認知症サポーターリーダーになっているのか。さざんかの会で在宅介護（生活介護支援）サポーターをしているが、人数がなかなか増えない。認知症サポーターリーダーの養成講座は市と合同でできるので4期生までいっているが、在宅介護（生活介護支援）サポーターは2期生で止まっている。手が回らない状況である。市全体の問題として在宅介護（生活介護支援）サポーター養成講座を開催できるよう検討してほしい。

【調査結果】生活介護支援サポーターの養成事業は、のじり地域包括支援センターに市が委託し、平成21年度、24年度、27年度の3年毎に行い、今年度終了予定者を含め70人となる予定である。養成期間は認知症サポーター12時間に比べ、生活介護支援サポーターは20時間であるため、市は受講者の状況を見ながら対応していくということであった。

議会活動報告への意見

※□市民の意見 ■議員の意見

※特にありません。